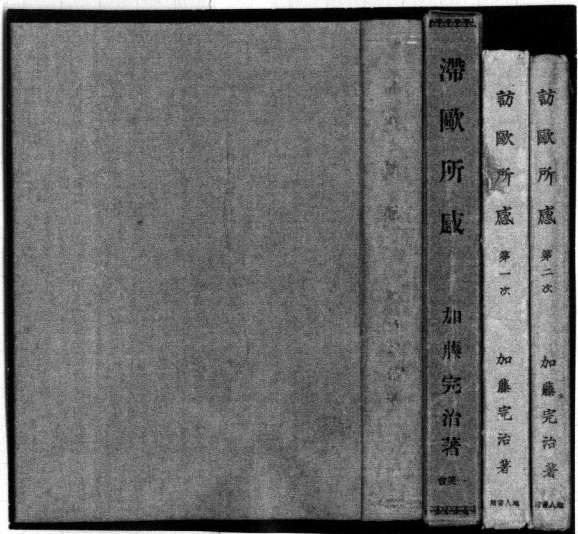


加藤完治 くわとう かんぢ 農本主義者。明治十七年一月二十一日東京生れ、昭和四年二月二十日没（八十四歳）。東京帝國大學農科大學卒。帝國農會、内務省嘱託を経て愛知縣の安城農林學校勤務。大正四年山形縣より自治講習所創立の當り、藤井武（内村鑑三門、山形縣吏）の推薦で初代所長に就任。次で茨城の日本國民高等學校開校の際に校長となる。滿洲建國に伴い關東軍の東宮鐵男大尉と共に移民計畫を建て、昭和十二年滿蒙开拓青少年義勇軍中央訓練所を開設、所長として寛克彦の説く古神道に則つた獨特の農本主義に基づき農業移民を展開した。戦後八ヶ嶽准放を受け福島縣へ入植、白河報徳开拓農協組合長、のち日本國民高等學校校長に復職。

著書に『滞歐所感』（二版・昭和五年九月十日山形・一笑會）、『訪歐所感』（第一次・昭和十六年十一月二十五日、第二次・十七年二月五日地人書館）、『農と日本精神』（昭和十八年二月五日千歳書房）、『加藤完治先生言行録』（丸山義一編、昭和十八年二月二十八日春陽堂書店）、『教學叢書・第十五輯』（他四名合著・文部省教學局編、昭和十九年六月二十日印刷局）、『決戦下の食糧増産』（昭和十九年七月十日朝日新聞社）等。小山寛一著『荒野の父加藤完治』（昭和十六年九月十一日大日本雄辯會講談社）、石原文雄著『滿洲開拓の父東宮大佐と加藤完治』



社）石原文雄著
『滿洲開拓の父東宮大佐と加藤完治』



(昭和十九年五月一日潮文閣)等がある。